

圓木の一橋

〔倭訓栄中編二十四〕まるきばし 獨木橋をいふ也

〔新撰六帖三〕はし

旅人のわたるかけぢの丸木ばしあやぶみながら行ちがひつ、

〔新撰六帖五〕ゑらぬ人

ふみまよふ山のかけぢの丸木橋ゑらずながらや戀渡るべき

前内大臣

〔源平盛衰記三十八〕小宰相局附慎夫人事

越前三位通盛ハ略○中 小宰相ノ局ト申女房ヲゾ相具シ給タリケル、彼局ト申ハ、故刑部卿憲方ノ娘、上西門院子内親王○後白河后ノ女房也、心ハ情深、形チ人ニ勝給タリト聞エシカバ、心ヲ懸ヌ人ハナシ、略○中 通盛御所ノ舍人ヲ語ヒテ、御文ヲ書テ是ヲ持テ、小宰相局ニ奉テ、散ヌ所ニ打置トテ給テゲリ○中 女院此文ヲ取出サセ給へバ、妓爐ノ煙ニ薰ツ、香モナヅカシキ匂アリ、手跡モナベテナラズ嚴ク、筆ノ立所モメヅラカナリ、

我戀ハ細谷川ノ丸木橋フミ返サレテヌル、袖力ナ略○中 難面御心モ今ハ中々嬉グテナント書タリ、是ハ逢ヌヲ恨タル文也略○中 女院御自御硯引寄セ御座テ、

タゞ憑メ細谷川ノ丸木橋フミ返テハ落ル習ゾ

谷水ノ下ニ流テ丸木橋フミ見テ後ゾ悔シカリケル、ト遊シテ、女院御媒ニテ渡ラセ給へバ、方及デ終ニ靡給ニケリ、

〔夫木和歌抄二十二〕文治六年五社百首まるきばし

すゞか山きりのふるきのまるきばしこれもやことの音にかよふらん

〔夫木和歌抄二十一〕家集行路歌ふしきのはし